

ペルーへ

ペルーに行きましようと思いを掛けられ、九月二五日から十月六日まで出かけてきた。一度は行ってみたいと思っていたので、念願かなって貴重な体験だったと嬉しく思っている。というのは、同郷のシスターがペルーの首都リマで永く働いていて「私がいる間に来たほうが良いですよ、歓迎しますよ」と言われていたからである。出発は福江空港から福岡空港へ。福岡空港で長崎から行くもう一人と合流し、成田空港へ。成田で他五名と合流し、一路、ロサンゼルスへ、お昼に到着。乗り継ぎのため半日観光。ハリウッド、ビバリーヒルズなどを巡る。夕食に食べた炭焼きのステーキとマリリンモンローが無名のころ働いていたパブを眺めながらコーヒを飲んだことが印象



たちのための診療所を設立した所。聖堂や他の施設もあり、イエスのカリタス修道女会の日本人シスター三名が働いていて、修道院の

に残った。真夜中にロス発。昼十一時頃、リマ着。ペルーでの拠点となるペンションに車で移動。疲れを癒すため夕刻までフリータイム。同郷のシスターが訪ねて来てくれ、しばし談笑。夕食後、貸し切りのタクシーで一時間ほど移動、エンマヌエル憩いの家に着。ここは、日系ペルー人で初めて司祭になったフランシスコ会の加藤神父様が、日系人のための老人ホームと貧しい人

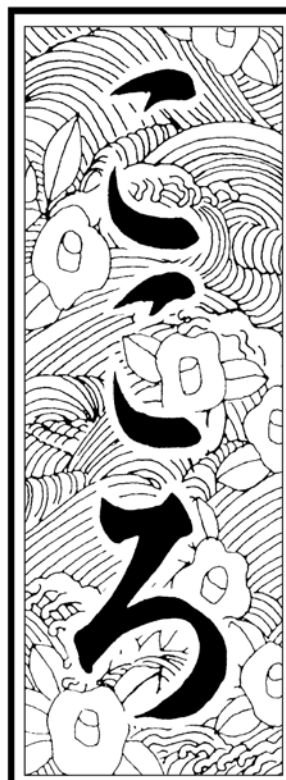
のミニ・コンサート。出番があると思っていたので、「ふるさと、長崎の鐘、千の風」の歌詞を準備していたが、正解。バイオリンとアコーディオンの生演奏付きで二曲独唱。アンコールは「千の風」。歌い終って拍手の嵐?。日本への思いの深さに共感した。夕刻、リマ市街に向け出発。



スター並みの体験。午後四時ごろナスカに着いたが、フライト出来ず、明日の朝のこと。夕食をゆっくり摂り、就寝。

(次号に続く)

主任司祭 中村 満



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
TEL 0959(72)3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

施設に泊めてもらった。

ペルー二日目。朝、目を覚まし、カーテンを開け、周囲を見回してビックリ。辺りは貧民街。山の頂までバラック小屋が建っている。え〜と驚いた。昨夜の夜景は何だったのか。昨晚リマからの移動途中、電飾の明かりが山の頂上まであり、あまりにも綺麗な夜景だったので、「山頂まですごいですね」と車内で話していると、「神父様、明日の朝、陽が昇ってからよく眺めてください。その光景には驚くと思いますよ」との声が。何を言っているのかその時は理解できなかったが、光の下で見ると一目瞭然、納得した。朝食を頂き、近くにある小中高校へボランティアのため出発。千人分の昼食の弁当詰めと弁当配りのお手伝い。貧しい地域で生活しているとはいえ、子供たちの生命力あふれる表情には癒された。その後、憩いの家に戻り、日系人のお年寄りへのミニ・コンサート。出番があると

遅い夕食を摂り、就寝。疲れたが、充実した一日だった。

ペルー三日目。朝食後、高速道路をベントンの小型マイクロバスでひたすらナスカへ向かう。途中、小さな町で昼食。シーフードだったが、カニ風味のリゾット、魚のフライ、貝類の入ったマリネなど美味しかった。その後、移動。途中、「ワカチナ」という砂漠のオアシスに寄る。バギーで砂漠を暴走。ジェットコースター並みの体験。午後四時ごろナスカに着いたが、フライト出来ず、明日の朝のこと。夕食をゆっくり摂り、就寝。



牢屋の窄殉教祭

―殉教から一四七―年目

こんなによいお天気になったのは何年ぶりでしょう、と、ここここで笑み交わしつつ、久賀小中学校運動場からロザリオ行列は始まりました。

下船場所から徒歩で参集した健脚組も合流して、小教区ごとに幟を立てた三百人ほどの人が長い列を作って進みます。途中ですれ違った巡礼団バスの皆さんは、自分たちも参加したそうに、私たちの行列を応援して下さいます。

目指すミサ会場の牢屋の窄殉教地は、浜脇小教区の皆さんが早朝から草刈り掃除をして下さり、美



しく整えられています。手作りの花のアーチが汗ばんだ一行を歓迎し、花壇の花々が風に揺れています。会場に着いた私たちは、東京から参加予定の巡礼団が到着するのを、ロザリオを唱えながらお待ちしました。

浜脇小教区の小島氏の挨拶で式典は始まりました。敷地と教会を人びとが埋めつくしています。ミサは六人の司祭の共同司式でした。久賀出身の中村神父さまのお話のあらましをご紹介します。久賀島の殉教は、私たちにあって、一番身近な殉教と言えます。どうして殉教できたのか、それは長く続くテーマです。今の時点で到達している答えの一つをお話しますと、それは人の歩行になぞらえられます。歩くとき、人は左右の足を交互に前に振り出します。実際に試せばすぐに判ることですが、決して片足では歩くことは出来ません。けんけんでは五十メートルがせいぜいです。利き脚即ち軸足の方が若干距離が伸びるにしても、無理であることに変わりはない。殉教者は二本の足で歩いた。利き脚が神の支え、恵み、力であり、他方



は信条など、人間の側の努力です。交互に使って支えあって歩いたのではない。現在の自分がどちらを軸足として、どのように歩いているのか振り返りなさい。」

第一朗読黙示録 7・2、4、9、14
第二朗読 1ヨハネ 3・1、3 福音朗読 マタイ 5・1、12a 奉納の歌 殉教の血潮に 閉祭の歌 五島キリシタン讃歌

参加者は、プラスチックで封入した手作りカードを記念に頂き、感動を胸に帰路につきました。殉教祭の企画準備、ご奉仕、ご協力、参加して下さいました皆様に感謝いたします。

墓地清掃・ミサ

十一月三日(火)午後、桐ヶ丘墓地にて墓地清掃と死者のためのミサが執り行われた。

ミサに先立って行われた墓地清掃には、約二十名程の信徒とシスター方が参加し草取りやゴミ拾いなどを行った。十一月とは思えない陽光のもと、作業は進み一時間ほどでゴミ袋七、八袋程の草やゴミが回収された。

引き続き行われたミサにおいて、中村神父様は死者の月について、「自分に関わりのあった人の死を通して、自分の生き方と死について、信仰について考える月としたい。」と述べられた。

墓地清掃、ミサに参加する事で、日常では忘れがちな亡くなった人を思い感謝する気持ちを、再び思い起こす事が出来た。大切な機会を与えて頂いた様に感謝すると共に、



年々少なくなっていく参加者に寂しさも感じながら帰路に就いた。

おめでとう 初聖体!!

十一月二十二日福江教会では初聖体を受ける子供たちや保護者、シスター、列席した信者一同の喜びにつつまれました。

これまで初聖体の勉強やお祈りの勉強を重ねてきてようやく迎えることができ、これからは毎回ご聖体をいただくことができます。

今年の初聖体は十名の子供たちが受け、昨年と比べ四名少なくなってきたおり、やはり少子化、教会離れの影響もあるのかとさびしく感じる一方、少数化が顕著にすすんでいる地区もあることを考えたら、これだけの人数がある程度保たれているということは今後も期待できるものも



あるのではと感じました。

静寂な時空のもと当日の式は執り行われ、子供たちも緊張した様子でしたが、中村神父様からの激励の言葉やユーモアを交えた話があり、また子供たち一人一人の今後がんばることの発表もあり、保護者をはじめ参加していた信者のみなさんにとって喜びと恵みに満ちた時間になったものと思います。

今日の経験を大切にして、これからの家族での信仰生活の向上、また信者の皆様からの今後も引き続きあたたかい見守りを願っております。

「神様やイエスさまに喜んでいただくために頑張りたいこと!」

保護者代表お礼のことは

本日は沢山の方々に見守られて盛大な初聖体式を行っていただき、子どもたちも保護者一同も喜びの気持ちでいっぱいです。



今日という日のために、子どもたちは数ヶ月間、週二回教会学校に通い、神様について学びそして昨日、自分の罪を告白し、初めてゆるしの秘跡をいただきました。ゆるしの秘跡によって軽やかになった心と体で、待ちに待った初めてのご聖体を受け、昨日までとはまた違った力強い歩みをしていけるのではないかと感じています。子どもたち自身も、神様の子供であること、愛されていることを強く感じたのではないのでしょうか。(中略)

ここまで教え導いて下さった中村神父様、小島神父様、また幼い子どもたちに温かく寄り添い、熱心にひとつひとつ教えて下さった中野シスター。そして本日のために準備やお祈りをしていただいたシスター方をはじめ皆様方にも心からお礼申し上げます。

信仰生活をはじめた子どもたちとともに、私たち保護者も信仰を心の支えにして歩み、見守り、導いていきたいと思っております。

どうか今後とも、皆様の温かいご指導とご支援をよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

保護者代表 中尾裕治



◆パウロ

山川 遥飛くん
「お友達と仲良くします」



◆ガブリエル

中田 秀人くん
「聖歌をがんばって歌いたいです」



◆パウロ

堂崎 翔太くん
「お友達と仲良くしたい」



◆ルカ

中尾 露唯くん
「聖歌隊をがんばりたいです」



◆アシジのフランスシスター

葛岡 瑞輝くん
「大きな声でお祈りをがんばりたい」



◆テクラ

小出 琉華さん
「十字架のしるしをきれいにします」



◆テレジア

西津 奈那さん
「お祈りをがんばります」



◆マリア

山口 たからさん
「教会の中を走らなようにします」



◆アンナ

洗川 優芽さん
「ミサの時、行儀良くします」



◆マリア

森 愛暖さん
「教会の歌をがんばります」

小島神父様 霊名のお祝い

十二月六日(日)二番ミサ後、フランシスコ・ザビエル小島明神父様の霊名のお祝いが行われた。初めに小学生代表の下崎君よりお祝いの言葉があり、その後信徒代表より霊的花束の贈呈が行われた。

小島神父様よりお礼の言葉があり、「司祭になって迎えた初めての霊名のお祝いで、皆さんにお祝いをして頂き、ありがとうございます。司祭としてまだまだ至らないところが多いと思いますが、フランシスコ・ザビエルにならって頑張りたい。」と述べられた。

福江教会の助任司祭として日々忙しく司牧に務められている小島神父様。出身地である五島の地とはいえ、



不慣れな事ばかりで心身ともに疲れる事も多いのではないかと推察します。くれぐれも健康に留意し、高校生会や青年会の活性化など、若さを生かした取り組みを特に期待しています。

クリスマスイルミネーション・馬小屋飾り付け



十一月二十九日、クリスマスイルミネーションと馬小屋の飾り付けが行われた。教会正面のイエス様の足下には星が配置され、ルルドや木々も美しい光に包まれた。馬小屋設置は大掛かりな舞台設置から岩を模した発泡スチロールなどの細かい部材を組み合わせて飾られている。この飾り付けは今回が最後で

来年度は設置方法を簡素化した新しい馬小屋となる予定。イルミネーションは一月初旬まで点灯される。



《香典返し》御礼

- 水谷 忠作 様
 - 故マリア 水谷ミト 様
 - 入口 伊都子 様
 - 故マリア 永尾 マチエ 様
- 右記の方から香典返しに代え、ご芳志を賜りました。
お礼をご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

お知らせ

◆クリスマス～年末年始のごミサの時間

- 《クリスマスミサ》
- 12月24日(木) 午後7時～
- 12月25日(金) 午前6時～ 午前9時～

《感謝のミサ》

- 12月31日(木) 午後7時～
- 《元旦ミサ》
- 1月1日(金) 午前9時～
- 1月2日(土) 午後7時～

今後の日程

- 1月10日(日) 小教区定例評議会
- 1月17日(日) 馬小屋、イルミネーション撤去
- 1月26日(火) 下五島地区合同堅信式 司祭団マラソン大会

編集後記

今年も残り少なくなりました。皆様にとってこの一年振り返って良い年でしたか？

この原稿を書いているとき、まだ気温が高いせいか年末の寒さを感じる事ができませんが、発行されお手元に届いたときはどのような感じになっているでしょう。

さて、私ごとになりますが、高校三年生の長男の進路がとりあえず決まりました。これまでも親子ともども様々なことで悩み、また励ましあいながら過ごし、そして進むべく道を決めたところですが、親として喜びをもつ一方、我が家から巣立っていくことに対しさびしい思いがあります。

小学生時は侍者の一員として教会で育まれ、いろんな経験をしましたが、長崎での雨の中の列福式に家族で参加できたことは特に印象強く覚えております。

残り少ない五島での生活、またそのあと始まる新しい生活を、これまで学んだこと、教えていただいたこと、そして感謝の気持ちを忘れず過ごしていければと願っております。